

第6回  
神埼小学校

# 私たちの学校自慢

この連載は、市内の小中学校を訪ね、他の学校には負けないという「学校自慢」を子どもたちに紹介してもらおうコーナーです。



6回目は、神埼小学校です。運営委員会委員長の諸永音和さん、副委員長の青木翔大さん、委員の森瑞季さん、波田舞菜さん、荒木優香さん、中川遥菜さん、山口達也さん、八谷崇史さん、東宏錦さんの9人に話を聞きました。

## この学校の自慢は何ですか？

- 諸永さん 「チエックの可愛いスカートと、緑色のブレザー」
- 青木さん 「学校全体が明るく、気持ちの良いあいさつができること」
- 森さん 「集会などで先生の話を聞く時は、元気な返事を返すこと」
- 波田さん 「縄跳び名人が多いこと」
- 荒木さん 「児童数が多く、一人一人が明るいこと」
- 中川さん 「台風に負けないセンダンの木」
- 山口さん 「時には厳しく、時には優しい先生たち」
- 八谷さん 「きれいな学思の門（学校正門）」
- 東さん 「運動場にセンダンの木があること」



かなり具体的な意見が出ましたが、センダンの木という言葉に注目したいと思います。  
戦前の小学校では、二宮金次郎像とともにセンダンの木を植える所が多

かったようです。「梅檀は二葉より芳し」ということわざがありますが、早く才能を発揮するようにとの願いや、木の成長が早いことから、流行したと考えられます。



6年生が毎朝自主的に玄関などを掃除します

神埼小学校の場合、明治40（一九〇七）年に現在の場所に建築する時にはすでにセンダンの木はあったようです。最初は、校庭の端にあった木も、校地拡大と校舎の増築で、現在の運動場中ほどの位置になり、夏には日陰を作り、子どもたちの憩いの場となりました。



## 校長先生から一言

長年研究している国語の勉強を活かして、「言葉を正しく使える人」、「人の話を聞ける人」、「温かい人間関係を結べる人」になってください。

神埼小学校 校長 田代 高規

ところが、このセンダンの木に事件が起きます。平成18（二〇〇六）年の台風で幹が両断されたのです。今回話を聞いた子どもたちが1年生の時です。撤去の話も出しましたが、児童、教師だけでなく、地域住民が立ち上がり、お金を集め、樹木医に診せ、奇跡の復活を遂げます。

学校の教育目標に「体を強く、心賢く、考える、せんだんの子」とあるように、子どもたちはセンダンの木と共に成長しました。この力強い生命力を見ながら6年生になり、「困難に打ち勝つ強さ」「あきらめずにやり抜く力」を学んだはずですが。

先生の話でも「自分の考えをしっかり持って意見を述べる事が出来る。朝の掃除も自主的にやっています」ということです。それでも、子どもたちは「まだ不十分。来年度はもつと上を目指してほしい」と後輩たちに託していました。校庭で若い芽を天に伸ばすセンダンの木のように。

神埼小学校の自慢は「センダンの木とせんだんの子どもたち」と言えるでしょう。